

令和 6 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	28	学 校 名	静岡県立富士宮北高等学校	校 長 名	山野 良成
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア	規律・礼節、規範・帰属意識を醸成し、主体的で健全な生活態度を育成する。	・「服装・頭髪指導がしっかりしている」「マナーがよい」保護者評価が各 90%以上 ・登校指導 40 日、昼巡視 20 日を通して挨拶、声掛けの励行 ・交通事故 10 件以内 ・交通安全教室 4 月に実施 ・ケイタイマナー教室 1 回実施、授業、LHR 等で生徒自らが情報モラルを考える時間の実施	・保護者評価が「服装・頭髪指導がしっかりしている」97%(+4%)、「マナーがよい」97%(+12%) ・昨年度低下したが一昨年度よりも高い評価となった。しかし教員評価は下がった。駐輪指導は改善して成果が出た。 ・登校指導 5 日(±0 日)、昼巡視 29 日(-1 日)、下校指導 4 日(±0 日)実施し挨拶の励行、携帯マナー指導を行った。 ・交通事故 13 件(+2 件) ・交通安全教室 4 月に実施できた ・ケイタイマナー教室 1 回夏休み前に実施。	A	・成果目標は達成できている。全体的に落ち着いている。 ・時代と共に校則等を変えていかなければならない中で、教員・生徒・保護者の共通理解が定着するまでが難しく今後の課題である。 ・昨年に引き続き、自転車指導カードを受ける生徒が増加。	生徒
		・「教職員は、悩みなどの相談（いじめ含む）にのってくれる」生徒評価 90%以上 ・特別支援が必要な生徒への適切な配慮と支援の実施	・「教職員は悩みなどの相談にのってくれる」生徒評価 91% ・特別支援教育の職員研修の実施、2 名の生徒のケース会議を実施、富士宮分校職員との情報交換等を実施した	A	・教育相談や特別支援教育の職員研修を継続して行っていく。 ・特別支援については、富士宮分校のセンター的機能を活用し、連携を図る。 ・相談室については、引き続き開けた相談室を目指す。	保健
		・行事（創立記念行事・式典等）を通じた校訓・校歌の理解・浸透	・式典、集会、創立記念講演会等を通じて、生徒は校訓に対する理解を深めることができた。 ・応援団長の指揮で校歌を歌った。	A B	・校訓の理解を深める指導を継続的に行う。 ・2 年後の創立記念講演会に向けて、検証と準備を早めに進めたい。 ・式典の際に、更にしっかりと声を出して校歌が歌えるようにしたい。	総務

様式第 3 号

イ	探究的な学習等を通して、自ら学ぶ態度・確かな学力を定着させ、将来社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。	・「分かりやすく学力が付く授業」85%以上 ・「自らの考えを表現できる生徒」60%以上 ・一日平均普通科 90 分以上、商業科 60 分以上 ・放課後の有効活用（委員会等の会議設定、学習指導、検定対策、部活動等）の実現に向けた教育課程検討委員会を実施する。	生徒 92% 保護者 89% 生徒 33% 普通科 147.1 分 商業科 93.7 分 教育課程検討委員会の年 5 回実施	A C B B	I C T の活用も進み、生徒が理解を促す教材が提供できている。 場面の創出はできているが、生徒はできていないと感じている。他項目の結果向上と関連させ、改善を図りたい。 学習時間の確保はできているが習慣化に課題がある。課題等を通じ家庭学習の習慣化を促したい。 放課後の時間の有効活用について考えることができた。進路目標等の明確化を図り、学習時間の向上、放課後の時間の活用の仕方を検討したい。	教務
		・ I C T を活用した授業の実施率 80% 以上	・ I C T を活用した授業の実施率は約 84.3%	A	全クラスで I C T を活用した授業が行われている。探究的な学習では、生徒及び教職員の I C T に関する技術力が高くなっているが分かる。	情報
		・「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価 90% 以上 ・新課程における適切な観点別評価の実施 100% ・授業公開週間を年 2 回以上実施 ・生徒による授業改善のためのアンケート実施	・「主体的対話的で深い学びの実現に結び付く授業改善に取り組んでいる」職員評価 89% ・授業研修週間を 1、2 学期に 1 回ずつ実施 ・生徒による授業改善のためのアンケートを 1、2 学期に 1 回ずつ実施	B	・昨年度は 81% だったので、伸びている。生徒や保護者のアンケート結果はそれぞれ 92%、90% のため、良好だと考える。 ・授業参観率がなかなか伸びない。先生方に負担なく、授業参観ができるための方策を考えていきたい。	図書研修
		・充実した探究学習の実施 ・充実した内容の実施に向けての検討委員会の実施 5 回	・昨年度より系統立てた内容となった ・委員会全員で集まることは少なかったが、学年主任の先生方や学年担当の先生方とは、随時打ち合わせを行った。	A B	・系統立てた内容への改善、5 テーマの見直しなど、前年度より充実した内容となった ・「行きたい学校づくり」推進事業で他校から学んだ内容を共有し、本校でも生かせるようにする。	総合的な学習の時間

様式第 3 号

ウ	学んだ知識や技能を実際に活用した実践的商業教育を推進する。	・対外的な商業活動 20 名以上 ・3 年の課題研究発表会の実施 ・商業科 2 級以上取得 95%以上、1 級 3 種目以上取得 20%以上 ・「授業等で実践的な取組ができた」と答える生徒 70%以上	・観光コンテスト参加、富士宮市と連携したネパール文具寄付活動、日本高校会議所総会で発表など 20 名以上の生徒が対外的な活動をした。 ・課題研究発表会 1 月実施。 ・2 級以上取得 79/81 人 98% 1 級 3 種目以上取得 28/81 人 35% (令和 4 年入学生 2025. 1. 10 現在) ・「授業等で実践的な取組」生徒肯定評価 80% (令和 4 年入学生)	A	・対外的な活動や発表に向けた活動を通して、持続可能な取組や商業の見方、考え方を養うことができた。 ・充実した課題研究発表会が実施できた。代表班は県商業教育研究会の課題研究発表大会（動画提出）に参加した。 ・積極的に各種検定に挑戦し、合格する生徒が多く、学習の成果が合格率に反映された。しかし 2 名の生徒が 2 級以上に合格できなかった。 ・8 割の生徒が「実践的な取組ができた」と実感する授業を実践した。	商業学科
		・外部人材による講演会の実施 ・商業科体験入学会の実施	・弁理士による知的財産権講座、起業家、市議会議員、大学陸上部コーチ等による講演・講座を実施。 ・商業科体験入学会では簿記と情報の講座で体験授業を実施。	B	・外部講師や富士宮市と連携した活動を通して、生徒の思考力を深めることができた。外部講師との連携方法は課題である。 ・中学生・保護者に商業科の魅力について周知できた。来年度は授業内容（科目）を検討していきたい。	
エ	自己理解・目的意識を高め、系統的な指導を通して個に応じた進路実現を支援する。	・校外模試偏差値 50 以上が 1・2 年で 20 人以上、3 年で 10 人以上 ・「北高は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価 90%以上、保護者肯定評価 80%以上 ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価 90%以上	・3 年生 11 月共催マーク模試では国英歴文系成績で偏差値 50 以上が 8/22 名、数理英理系成績で 3/23 名、2 年生 11 月総合記述模試国数英総合 17/105 名、1 年生 11 月総合記述模試国数英総合 16/120 名であった。合計人数は 44 名。 ・「北高は生徒一人一人に応じて、計画的な進路指導が行われている。」生徒肯定評価 89. 42%%以上、保護者肯定評価 88. 9%以上 ・「進路決定先満足度」3 年生肯定評価 93%以上	B	概ね目標が達成されているが、教員負担は年々増加している。取り組み方を変えていく必要がある。	進路
		・生徒の進路意識を向上させるため、学期に 2 回以上自らの行動を記録させ、学期に 1 回程度内容を振り返ることで、その後の行動が主体的で意識的になること ・「学びの基礎診断」としての測定ツールを活用し、学年等で検討会を実施し、進路指導に活用する。	・「学びの基礎診断」として、スタディーサポートを例年実施しており、ベネッセによる結果の見方や情報共有を学年ごと実施した。	C	日々の活動をポートフォリオにまとめることは、進路よりも探求活動においてなされている。来年以降は取り組み方法の変更が必要。	

様式第3号

		・新しい入試に対する情報を収集し、その結果を生徒に伝える機会を学期1回程度持つことで、生徒と教員の情報共有ができること	・今年度から共通テストに組み込まれる教科「情報」については、専門教員がいない中で、外部から情報を集めたり、生徒に問題集を薦めたりするなどした。また、情報課の先生方の協力も得られ、勉強会を実施できた。	A	教科「情報」の専門教員がいないため、対策が難しいのは来年以降も変わらない可能性が高い。固定的な方法を考えていく必要がある。	
オ	多様な活動への参加を通して、自己有用感・達成感、豊かな人間性、共生意識、社会的資質・能力を育成する。	・「充実した部活動により人間性が高められた」と答える生徒85%以上 ・ボランティア活動に参加40%以上 ・生徒会を中心としたボランティアの参加4回以上 ・生徒会の生徒を中心としたランチミーティングの実施…年間10回以上 ・よりよい学校づくりや校則の見直し等に、生徒が積極的に参画する経験を通して、物事が成就する過程を経験させ、自己肯定感の高揚を図る。	・「部活動に参加し、人間性が高められた」生徒評価89%(±0%) ・「ボランティア活動に参加した」生徒評価47%(+7%) ・生徒会を中心としたボランティア参加4回実施。 ・生徒会の生徒を中心としたランチミーティングの実施10回。校長とのランチミーティングはうち7回 ・生徒会を中心としたスローガンの作成を実施。 ・生徒総会で文化祭のルールの変更案を可決し、施行した。	A	・成果目標は達成できている。部活動、生徒会ともに例年より充実していたのではないかと。 ・地域河川清掃は約70名の生徒が参加し、事後アンケートでは将来自分の住んでいる地域に貢献したいという気持ちが高まったという生徒が99.5%であった。 ・スローガンの作成を継続し、自主性を高めていく。 ・ランチミーティングを通して生徒会行事やルールなどについて考える機会が増え、自主性が芽生えた。	生徒 校長
		・朝読書を時間通り始めているクラス100% ・奨励図書の子供公募、ビブリオバトル活動の継続 ・図書貸出全校で1,000冊以上	・ビブリオバトルの取り組みは良好である。 ・ブックフェア、図書購入、読書週間を行った。 ・図書貸出冊数は、全校で720冊だった。	B	図書貸出数は目標に達することができなかったが、昨年度は490冊だったので、大幅に増加した。	図書 研修
		・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価60%以上	・「学校は清掃や整頓がきちんと行われていてキレイである」職員評価49%	C	・校舎建て替えによる新たな清掃分担の作成と共に、新たな清掃用具の導入の検討 ・ゴミ分別の推進	保健
		・分校との交流20回以上 ・富士宮分校生徒とのプランターの植栽活動の実践（年1回以上）	・分校との交流は庭園・美化委員会による植栽活動2回清掃交流の実施、保健委員会による合同保健委員会2回実施することができた。	A	・来年以降も継続して、富士宮分校との交流を図りたい。 ・大月線の花植えについては、時期と回数を検討し、実施していく。	
		・分校との交流20回以上 ・富士宮分校生徒とのプランターの植栽活動の実践（年1回以上）	・富士宮分校の交流は、北嶺祭体育の部、庭園・美化委員会による植栽作業、一年部生徒の交流等を、20回以上行うことができた。	A	・本年度、新たに分校と本校の職員による合同共生委員会を開催し、交流時期や実施方法について担当者間で確認ができた。 ・同世代との交流を通して、お互いを認め尊重し合う心を育てることができた。	共生・ 共育

様式第 3 号

カ	外部諸機関・地域との連携や積極的な広報活動を通して、開かれた学校づくりを推進する。	・教職員向け校内研修 2 回以上 ・生徒の地域防災参加 60%以上	・職員向けに、防災の校内研修を 2 回行った。 ・生徒の地域防災参加率は昨年同様 33%だった。 ・「防災訓練等で生徒の防災意識が高まっている」が生徒 91%、保護者 87%、職員 95%に伸びた。	A B A	・効果的な訓練、教育、研修を継続する。 ・次年度は、新校舎からの避難経路を生徒に確認させる。 ・生徒の地域防災参加率は、目標数値の見直しも必要か。	総務
		・月 4 回以上のホームページの更新 ・Instagram 等によるタイムリーな配信（「北高ニュース」をリアルタイムで配信する） ・PTA、学校後援会及び同窓会との連携強化	・「地域や保護者に積極的に情報発信をしている」が、保護者 83%、職員 97%と伸びた。 ・ホームページをリニューアルして見やすくなった。 ・新規にInstagramを導入、1/16 現在の投稿数 327 件、1 カ月当たりの閲覧回数約 15 万回。 ・「本校の P T A は活発である」が保護者 95%と伸びた。 ・P T A 役員会等のシステムを変え、役員会が円滑に進むようになった、 ・P T A の各委員会が活発に活動するようになった。	A A A	・ホームページは今後も毎年しっかりと更新していく必要がある。 ・Instagram は今後もタイムリーな内容の発信を継続したい。 ・P T A 活動の見直しと活性化を更に進める。 ・P T A、後援会、同窓会との連携を更に進める。	
		・一日体験入学アンケート、満足度 70%以上 ・魅力的な体験入学および公開授業の実施	中学生 97% 保護者 98% アンケート高評価 中学生 100%	A A	満足度は非常に高かった。部活動の公式戦で公欠の生徒が多かったので日程調整で対応する。 商業科の体験授業で本校の授業の魅力を伝えられている。今後も継続していきたい。	教務
		・効果的な広報資料の作成と中学校訪問年 3 回実施による志願者の確保	・広報用の資料やスライド改善 ・Instagram の開設 ・中学校説明会 8 校実施	A	・商業科に重点をおいた学校説明は手ごたえがあった。 ・Instagram はフォロワー数が 1000 人に達した。	
キ	教育活動を推進していくために必要な校内研修を実施し、教員の資質向上を図り、安全で信頼	・校内研修参加 95%以上、満足度 80%以上 ・事例研究、グループ研修を年 3 回以上実施 ・校外研修の報告することで情報共有	・校内研修参加率、満足度ともに 95%以上だった ・指導力向上のための校内研修に積極的に参加している 89% ・チーム研修を 4 回実施 ・1 月末に「総合的な探究の時間」の先進校視察予定	A	・教員が満足する有益な研修を今後行う。 ・実際に視察は 1 校のみだったが、「行きたい学校づくり」事業で他校の取り組みを学ぶことができた。	図書研修

様式第3号

	される学校づくりを推進する	・コンプライアンス委員会を年3回開催し、職場環境や教職員の勤務状況を把握して適切に対応 ・コンプライアンス通信を配布し注意喚起	・コンプライアンス委員会を年3回開催 ・コンプライアンス研修は毎月実施し、さらに「懲戒処分の公表について」のタイミングに合わせて朝の打合せ時にもミニ研修を実施できた。 ・2件の教員による不祥事が起こってしまった。	C	・2件の教員不祥事が起こってしまった。 ・教職員がコンプライアンスを自分事として捉える工夫が必要である。	管理職 コンプライアンス委
		・各教室への消毒設置100% ・感染症・熱中症の注意喚起を年3回以上実施	・各教室への消毒設置100% ・ほけんだよりや掲示物により、感染症・熱中症の注意喚起を学期に1回以上実施することができた	A	・本年度もインフルエンザの流行がみられた。来年度以降も、状況に応じて予防接種の推奨等、適切に指導していく。	保健
		・監査等における指摘事項0件 ・光熱水費の前年比増10%以内（空調稼働分の節約） ・学校運営に係る予算について前年比10%節約 ・施設設備安全点検月1回以上により、事故発生件数0件	・監査等における指摘事項はなく、達成できた。 ・特別教室の空調等設備の増加やコロナ明けの活動再開を受け光熱水費の増加は10%を超えてしまった。 ・施設設備安全点検は都度行うも、側溝のふたの破損による事故が1件発生してしまった。	B	・法令に則った事務処理が適正に行うことができていく。継続して対応していく。 ・生徒活動が活発化し、学習環境整備のために施設は増加している。熱中症予防等、有効に活用することは推進すべきだが、消し忘れ等の無駄遣いをなくし、メリハリのある利用を周知していく必要がある。 ・事故の個所は速やかに補修した。安全点検や職員の意見・報告を受けて安心・安全な教育環境を提供する。	事務部
ク	教職員の多忙化解消に向け、「業務改善」に取り組む。	・ストレスチェックの結果が県平均より良好 ・職員会議は協議事項の意見交換を主として、連絡事項は分かりやすい資料の配布で簡略化 ・業務のデータを活用した効率的な業務の実施、次の担当者のために業務のマニュアル化 ・定期テスト監督の平準化	・ストレスチェックの結果は県平均より良かった。 ・管理職打合せや運営委員会のペーパーレス化を実現できた。	B	・会議のペーパーレス化や、入試業務の簡素化など事務処理レベルの改善は進んだものの、直接、業務の精選やワークライフバランスに繋がっているかどうか、分かりにくい。	管理職